

不二製油グループ本社株式会社 2020 年度第 1 四半期決算電話会議 主な質疑応答

・日時 : 2020 年 8 月 5 日 (水) 15:30~16:30
・スピーカー : 取締役 最高財務責任者 (CFO) 松本 智樹

<全体の業績について>

Q.2Q 以降のモメンタム

A.大豆加工素材事業については引き続き堅調に推移するも、インバウンドを中心とした土産市場や外食市場は依然弱い動向と考える。一方、各国で移動制限や外出規制が緩和しており、その他の市場の需要は回復基調である。第二波・第三波などで回復が遅れる市場もあるが、経費削減で利益の落ち込みをカバーするとともに、成長が期待される健康栄養市場に注力していく。

Q.需要の鈍化によるマーケット・競争環境の変化の見込み

A. 消費者の節約志向の加速により、業務用チョコレート事業においては、ピュアチョコレートと比較し、価格優位性が有り、弊社が得意とするコンパウンドチョコレートの強みが発揮されると考える。また植物性油脂事業でもココアバターに対しコストメリットのある CBE の需要の高まりが想定される。

Q.来期以降の考え方

A.回復に時間がかかる市場もあることは事実。非中核・不採算の事業の整理を継続し、同時に海外の新規に取得した拠点の収益性を上げていくとともに、既存拠点における Plant Based Food のマーケット創出を図る。

<米州業務用チョコレート事業について>

Q.ブラマーの今後のモメンタム及び、生産効率面など同社固有の課題への取組みの進捗

A.ブラマーの 3Q (8-10 月) は、ハロウィンやクリスマスなどの大きなイベントに向け、販売量が増加する時期であり、動向を注視している。前年度に顕在化した雇用面での課題は解消、また良品率、生産性の向上については、KPI を設け取組みを継続し改善を果たしている。今後もオペレーション改善を主目的とした継続的な設備投資を予定している。

Q.ハラルドの 2Q 以降のモメンタム

A.前年には達しないものの足元では主要顧客である業務スーパー等も営業を再開しつつあり回復基調に向かっている。3~4Q での繁忙期の動向を注視している。

<その他エリアの状況について>

Q.中国エリアの状況

A.業務用チョコレート事業は中国ブラマーとの連携を開始。一方パン市場の需要の回復が遅れ、消費者の節約志向や競合他社との価格競争などにより採算は低下。そのため経費削減に注力し利益の確保に努めている。

以上